

真の企業価値の向上を目指して

企業の活動には二面性があります。社会に便利さや豊かさ、快適さなど、いい結果をもたらす面と、地球温暖化、オゾン層破壊など後世に禍根を残すような副産物を生み出しかねないという一面です。

近年、「持続可能な発展」というテーマが社会に生きていく企業の大きな課題として取り上げられてきたのも、そうした企業活動の両面を同時に評価すべきだという考え方が主流になってきたからです。

私たちNTTグループも社会に様々な形で貢献しつつも、その一方で環境に大きな負荷をかけていることは否めません。

私たちは、「NTTグループ3ヵ年経営計画」のなかで、「グローバル情報流通企業グループ」という旗印を掲げ、有線・無線融合によるコピキタスサービスの提供など、ブロードバンド(光)市場の創造を今後の事業の重要な柱としております。こうしたサービスの提供を通じて、人々のコミュニケーションを豊かにする事業活動を展開し、さらには、社会の産業構造の革新に貢献していこうとしておりますが、一方でネットワークやサーバー、端末等に消費されるエネルギーや資源の増加など環境への負荷は、大きくならざるを得ません。

しかし、これを削減する努力を重ねながら、新しい事業を創造していくことは、不可能ではありません。私たちの研究開発スタッフを始めNTTグループ社員が真剣に努力し、メーカーの皆様、お客様と一体となって取り組めば、成果は必ず上がるは

ずであります。また、こうした努力を社会に呼びかけ、率先していくのは、社会の一員である企業の責任として当然のことであると考えております。

私たちが考える環境への貢献の理想の姿は、単に節減を中心とした企業活動の抑制ではなく、社会の発展に貢献する創造的事業の展開が、同時に環境保護にもつながることです。こうした活動は、環境問題の解決に貢献するとともに、新しい産業を興し、日本の経済の発展にも寄与することにもなるでしょう。私たちの姿勢を是非ともご理解いただいた上で、この『環境保護活動報告書2002年版』をご覧くださいませう、お願い申し上げます。

この報告書は、NTTグループの環境活動への取り組みを、多くの皆様にお知らせし、皆様と対話をさせていただくための重要なツールだと考えております。率直なご意見やご助言をいただければ幸いです。皆様の貴重なメッセージを、今後のNTTグループの事業活動に積極的に活かさせていただく所存です。



日本電信電話株式会社
代表取締役社長

和田紀夫

本報告書の編集方針	
2002年度の環境保護活動報告書は、2001年度(2001年4月1日～2002年3月31日)の実績をもとに作成したものです。(一部2002年4月1日以降の活動と将来の見通しを含んでいます。)	
NTTグループとして記載している2001年度の数値は、主にNTT(持株会社)、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTドコモ9社、NTTデータ、NTTファシリティーズ、NTTコムウェアから集計しています。	
なお、1998年以前の数値は、主に再編以前のNTTから集計しています。詳細は巻末のデータ集をご覧ください。	
NTTグループでは、一昨年は環境報告書に関するさまざまなガイドラインをもとに、「NTTグループ会社環境報告書作成ガイドライン」を作成し、それに沿った形で「環境保護活動報告書」を作成しました。昨年度はさらに、環境省のガイドラインと、世界的な潮流の一つであるGRIのガイドラインを取り入れ、環境保護活動の報告と合わせ、社会的、経済的な側面も含めた情報開示を試みました。今年度は、参照したガイドラインは昨年度と同様ですが、昨年度よりもさらに、サステナビリティを意識し、投資家へのメッセージという側面も意識しました。また、幾つかの試みを重ねている段階ですが、今後の環境保護活動報告書の性質、特性、役割などを決定づける重要な年度と考えています。	
環境会計については「NTTグループ環境会計ガイドライン」(2002年版)を作成し、集計しました。	
CO ₂ 排出量の集計について、NTTグループ各社内に設置されたお客さま設備起因の排出量の別掲をはじめました。2001年度実績では、データセンター起因分を別掲しております。	
NTTグループでは、環境保護活動報告書をホームページを中心として公開しております。質問形式にして、検索しやすいように配慮しました。詳しくは巻末にウェブの案内を掲出しています。ご覧ください。	
冊子版は必要最小限な情報とデータを記載し、また、紙資源節約のため、昨年に比べて約半分のページとしました。なお、2002年度版で掲載しなかった情報は継続して実施しております。	
第三者認証につきましては実施しないことになりましたが、本報告書はお客さまとのコミュニケーションの大切なツールの1つと考えており、NTTグループの真実を記載させていただきます。	
組織の名称は、2002年3月末日現在のものです。	
2002年8月	

2001年度版に掲載し、2002年度版に掲載しなかった情報		
項目	ページ	内容
IT革命で環境に貢献	6 8 10	IT革命とはなにか ITと地球の温暖化 電力消費量の予測
ITを活用した環境問題への取り組み	12	工場のIT化 TV会議 高度道路情報システム(ITS)
R&Dと環境教育	14	WebAngelによる環境教育 電子野帳 桜開花調査
紙資源対策	25	OPSフィルムを使った請求書の封筒
温暖化防止対策	27	「クレドの森」野外庭園の試み アイドリングストップ運動
リサイクル推進	28 29	ユニフォームのリサイクル 食品リサイクル資源(生ゴミ)循環システム
廃棄物対策	30	GPSによる廃棄物処理過程追跡
オゾン層の保護	31	ターボ冷凍機の更改と 社内フロンバンクによる適正保管
環境リスク対策	32	電磁波に関する研究
グループ社員の社会貢献	35	わがまち・わがみち事業 天然ガス自動車の導入
社員教育・受賞	36	環境に関する受賞
社会との関係	40	従業員との関係 福利厚生

環境と話し合ってきました。

私たちに、いまできることはなんだろう、と考えてきました。

そして、いまできることを、一つひとつ、実施してきました。

その結果がここに集まった事実と数字です。

それは、各企業として、グループとして

未来に繋がることを可能にする道でもあります。

私たちは、これからも環境に関する情報を自由に交流させ、

次になにをすべきかをそこから発見し、

経営に積極的に取り入れると同時に、皆さまに広く公開し、

社会と私たちの理解の道を開いていきます。

それが、エココミュニケーション。

【表紙の言葉】

NTTグループは、環境保護活動とは、地球規模で展開するべき人類の重要な課題であると考えています。

企業責任として、環境保護活動を展開することは当然ですが、単に、一企業の判断で行うものではなく、

地球という単位の価値観で考え行動すべき問題と考えています。

そうした思いを言葉にした、「エココミュニケーション」を力強く表現し、

NTTグループの環境に関する決意の強さを訴求しました。